

チェーンソーよもやま話

これからシリーズで、チェーンソーに関する様々なお話をさせて頂きます。

但し、お話しする内容には、私見も含まれていることをご了承ください。

第10話

《中途半端はやめて》

何事も、中途半端な知識は役に立たないようで、チェーンソーの扱い方でもそう言えます。

安全講習を受講しただけで（第2話で書いた若葉マーク者）” いっちょ前の技術” が身に付いたように勘違いし、以後は我流で木を伐る方だとか、ある程度の技量が付くと「もう学ぶことはない」と天狗になる方もいらっっしゃいます。

結果、大きな事故につながりかねません。常に修練を積む心掛けが大切だと思います。

プロ野球選手は、シーズンオフにチームの垣根を越えて、自分が尊敬する選手のもとを訪れて教えを請い、共に練習をすることがありますよね。より習熟した人に師事して技術や知識を今以上に身に付けることを「スーパービジョン」というそうです。切磋琢磨することでしょうか。

チェーンソー講習会を開いていても、生半可に扱える方の中には、講義の途中に「要は、こうこうこういうことで、こうすれば良いんや!!」などと『ウンチク』を語り始める方も居られます。（それならあなたが講師をされては・・・と思ってしまう）

また、中途半端に学んでおられる方は、話を聴く姿勢に欠け、「もう知ってる!!」という態度で、新たに学ぶことを拒否される方も往々にして見かけられます。

70歳台の方なら、歌手・山本リンダさんをご存知だと思います。

『♪♪ちゅう〜と はんばは やめて♪♪』の唄のとおり、
「己の無知」を知り、終生学ぶ姿勢を保ちましょう。

技量の向上を目指す人は、謙虚な方が多いです。

知識や技量を追い求め、相手を批判するのではなく、後輩、先輩の区別なく、参考になることは積極的に取り組む姿勢でおられます。

私も、常にそうでありたいと願っています。

精進します。

※ 一旦「よもやま話」は、ここまでとします。